

別記  
第1号様式(第14条関係)

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛先) 京 都 府 知 事		平成24年 7月 27日
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府京都市中京区西ノ京桑原町1		氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 株式会社 島津製作所 代表取締役 中本 晃
環境マネジメントシステムの名称	ISO14001:2004・JIS Q 14001:2004	
適用範囲	島津製作所 本社地区事業所(本社・三条工場、御池地区、瀬田事業所、基盤技術研究所(けいはんな)、紫野工場、太平工業)	
導入年月日	1997年 6月 24日	
認証番号	EC97J1031	
基本方針	当社本社地区事業所は、機器の開発・製造の拡大に努めるとともに、業務活動、製品ならびにその製造過程及び関連サービスが環境に与える影響を的確に捉え、継続的な環境マネジメントシステムの改善により、持続的な環境負荷の低減と汚染の予防、社会の環境改善への積極的貢献を目指して当社本社地区事業所環境方針に基づき活動する。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	<p>平成23年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー起因するCO2排出量: 21,066t-CO2以下</li> <li>・廃棄物(紙類)の分別徹底による非有害物量の削減: 2008年度比20%以上削減</li> <li>・代替フロン使用量の削減: 1998年度比37%以下</li> <li>・環境配慮製品の開発: エコラベル適合製品25件以上</li> <li>・グリーン調達: 材料購入品目のグリーン化70%以上、事務用品のグリーン購入率93%以上</li> </ul>	
目標を達成するための取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2排出量: 省エネ活動の継続(不要時消灯、室温適正化など)、設備の更新や改善、クリーンルームの運用改善など</li> <li>・廃棄物(紙類): 分別の徹底と排出量の把握・管理</li> <li>・代替フロン使用量: 日々の管理、使用量の把握、代替化による全廃</li> <li>・環境配慮製品: 省エネプロジェクトの推進と有害物質排除製品開発の推進</li> <li>・グリーン調達: 含有物質調査の推進</li> </ul>	
目標を達成するための取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2排出量: 震災による節電への対応もあり、運用面、設備面からの削減施策を確実に実施した。</li> <li>・廃棄物(紙類): 廃棄時に分別の徹底し、非有害物を削減した。</li> <li>・代替フロン使用量: 1事業部で代替化による全廃が3/末に完了した。</li> <li>・環境配慮製品: 省エネ10件、有害物質排除19件。</li> <li>・グリーン調達: 仕入先監査を10社実施した。</li> </ul>	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2排出量: 実績19,240t-CO2で目標達成。</li> <li>・廃棄物(紙類): 2008年度比で26%削減し目標達成。</li> <li>・代替フロン使用量: 1998年度使用量の32.8%となり目標達成。</li> <li>・環境配慮製品: 29件のエコラベル適合製品を開発し目標達成。</li> <li>・グリーン調達: 材料購入品目のグリーン化は実績71.5%で目標達成。事務用品グリーン購入率は実績91.5%で目標未達。原因はグリーン品のない用途品(印、ロール紙等)があり、その購入額が大きかったため</li> </ul>	
事業活動に係る法令の遵守の状況	平成22年度は、5件(排水3件、フロン回収破壊1件、毒劇1件)について法令遵守上の問題が生じたが、これらについては速やかに行政へ報告を行うとともに、原因を特定し対策を実施することで、適正に対応した。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価・見直しについては、マネジメントレビューで、1年に1回実施している。平成24年4月11日に開催した環境委員会で、マネジメントレビューを実施し当社本社地区事業所の環境マネジメントシステムの適合性、妥当性並びに有効性は確実に維持していることを確認した。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。